

[第857回ゼミ報告] 2023年5月5号

観光地に多くの人、イベントに長蛇の列、ゴールドウイーク、3年ぶりの光景がテレビに、そこにクレムリンにドローンと北陸の地震のニュース

4月26日のゼミは、斎藤幸平『ゼロからの『資本論』』第2章「なぜ過労死はなくなるのか」を高田の報告で行いました。あらゆる富が商品化される資本主義。際限のない価値の拡大と、労働者と自然環境への犠牲・攪乱。生産の目的は使用価値でなく価値。資本とは価値の自己増殖、金儲けの永遠の運動。価値が自立した主体となって人間を振り回す。価値・資本蓄積は生産という秘められた場所ではしか増えない。労働と労働力：労働力による賃金以上の剰余価値を資本家は受け取る。長時間労働による絶対的剰余価値の生産、サービス残業・過労死。労働力は本来社会的富の一つであるが、資本主義ではその富を商品に閉じ込める。資本論に書かれた過労死、150年後の日本でも、今なお労働力・富の破壊。労働者の自由、二重の意味、身分の自由と生産手段からの自由(持たない)。なぜそこまで働くのか、資本主義では生存保障はなし、自己責任、その落とし穴：仕事を失う恐怖、自由を手放す、資本の論理への包摂、魂の包摂、24時間戦えますか。労働運動：労働日の制限・短縮をマルクスは主張、賃上げより労働日の短縮：労働者の団結・交渉が不可欠。労働日への相反する動き：テレワーク・ワーケーション：仕事とプライベートの境界があいまい、24時間働ける、スマホ中毒、デジタル・プロレタリアート。労働時間短縮の動：フィンランド週休3日。

討論では、初期マルクスの視点で、資本の枠に、商品も、また人間も労働力の商品として閉じ込められていると主張する。疎外論の記述が資本論では少ない。富とは、人間が豊かになること、共同体・コモンに結び付く。共有地、入会権、人と人との関係性が解体される。人間の個々の可能性、全面的展開が商品への閉じ込め。「富」は資本論に書かれているのか。人間と自然、物質代謝と生産力主義、エンゲルスの自然からの復讐論に対し、マルクスは資本主義的農業での物質代謝の亀裂・攪乱を。労働運動が主体的にならない問題、民主的・下からの運動。

会場参加は小野さん・川口さん・山口さん・高田、オンライン参加は斎藤さん・竹内さん・後藤さん、井本さんの8名でした。

* 5月10日(第2週)ゼミも、午後5時半(or 45分)から8時です。

・オンライン情報 Zoom: ID: 870 7477 5364 パスコード: 205571

***** ゼミ日程 *****

- 5月10日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
柄谷行人『力と交換様式』第1部第3章 交換様式Cと力 報告：小野さん
- 5月24日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
斎藤幸平『ゼロからの『資本論』』第3章 イノベーション・報告：後藤さん
- 6月14日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
柄谷行人『力と交換様式』第1部第4章 交換様式Dと力 報告者未定
その後 6/28, 7/12, 7/26 [アイクルの部屋]

◇第三学科事務局/高田好章：ytakada@kcn.ne.jp 090-8658-3755
HomePage: <http://ysweb.g.dgdg.jp/ytakada/kisoken/> Pass: kiso